

あいち病害虫情報 最新情報

令和元年10月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

向こう1か月の気温は高い

名古屋地方気象台10月17日発表の1か月予報によると、向こう1か月は、気温が高く、特に期間の前半はかなり高くなる見込みです。また、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ない見込みです。

果樹の病害虫

新都市に設置した予察灯において、果樹カメムシ類であるツヤアオカメムシの誘殺数が10月第2半旬に急増しました。台風後の一時的な増加の可能性もありますが、1か月予報によれば平年に比べ気温は高いと予想されており、カンキツやカキで果樹カメムシ類による被害が発生するおそれがあります。圃場での発生状況に注意してください。防除対策等は、9月2日発表の「果樹カメムシ類情報第4号」を参照してください。

ナシ黒星病の発生が多かったほ場では、次作への伝染源をなくすことが重要です。落葉の処理やりん片への感染を防ぐ農薬散布を実施しましょう。詳細は、10月1日発表の「ナシ黒星病情報第1号」を参照してください。

キャベツ黒腐病などの細菌性の病害に注意！

キャベツ黒腐病やキャベツ及びハクサイの軟腐病など細菌が原因となる病害は、風雨により発生が助長されます。降雨が続くと予想される場合や、台風などの激しい風雨が予想される場合は、降雨前後に抗生物質剤や銅水和剤などで防除しましょう。昨年度、発生が多かったほ場では特に注意しましょう。なお、銅水和剤を用いる場合は、炭酸カルシウム水和剤（クレフノンなど）を加用して、薬害の発生を防ぎましょう。黒腐病の防除については、10月10日発表の「キャベツ黒腐病情報第1号」を参照してください。

ハクサイではアブラムシの発生に注意！

10月上旬の調査では、アブラムシ類の発生量が過去10年と比較して最も多い状況でした。発生が見られるほ場では、結球前に防除を徹底しましょう。

コナガの発生に注意！

コナガの10月上旬の発生量は、ハクサイほ場において多く、キャベツほ場においてやや多い状況です。本日発表の「コナガ情報第1号」を参照してください。

ハスモンヨトウ誘殺数増加！チョウ目害虫の発生に注意

ハスモンヨトウの10月上旬のキャベツほ場における発生量はやや多い状況で、フェロモ

ントラップにおける誘殺数は平年並です。

シロイチモジヨトウは、10月上旬のキャベツほ場における発生量は多く、フェロモントラップにおける誘殺数もここ数年と同様に多い状況が続いています。

オオタバコガは、10月上旬のキャベツほ場における発生量はやや少なく、フェロモントラップにおける誘殺数は平年並からやや多い状況です。

向こう1か月の気温は高い見込みで、これらのチョウ目害虫にとって好適な条件が続くと予想されます。ほ場での発生状況に注意し、適宜防除しましょう。

施設野菜の病害に注意！

長雨が続くと、施設野菜においてトマトすすかび病やナスすす斑病、キュウリべと病などの病害の発生が増加する可能性があります。向こう1か月の降水量は多くなる見込みのため、発生状況に注意し、防除を徹底しましょう。

イチゴの病害虫

ハダニ類は多発した後では防除が難しくなるので、気門封鎖型薬剤を積極的に活用し、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。

炭疽病は、気温の高い状況が続くと発生量が多くなります。引き続き発生に注意して、発病株を見つけたら速やかに抜き取り処分しましょう。10月1日発表の「イチゴ炭疽病情報第1号」を参照してください。

ダイズの害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、やや少ないから平年並の状況です。オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並の状況です。また、西三河地域を中心にシロイチモジヨトウの寄生を確認しています。

9月下旬におけるダイズの吸実性カメムシ類の発生量は平年並でした。しかし、一部で多く発生しているほ場があります。今年は水田でミナミアオカメムシが多く発生しており、それらがイネ刈りとともにダイズほ場に移動し、加害する可能性があります。吸実性カメムシ類やチョウ目害虫の発生が多いほ場では、収穫前日数に注意して防除しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820